

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 68 号

平成 19 年 12 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

バジレア・シュリンク

「愛のまなざし 神の子の日ごとのよりどころ」より (1)

バジレア・シュリンク (1904 - 2001)

M・バジレア・シュリンクは、1904 年西ドイツに生れた。社会福祉訓練を受けた後、神学校を卒業。ハンブルグ大学で、芸術・哲学・神学・心理学を学び、1934 年心理学の博士号を受けた。ドイツキリスト教学生連盟の会長として奉仕し、ヒットラーのナチス政権時代にあっては、告白教会のメンバーとして、勇気をもってキリストを宣言した。

第二次大戦による故郷ダルムシュタット市崩壊の後、1947 年マザー・マルチュリアと共にマリア福音姉妹会を、西ドイツのプロテスタント国教会内に創設した。その活動は成長拡大し、小さなカナンの地を設立、後に兄弟会を併設した。今ではカナンのセンターは、日本を含め世界各地に点在する。

マザー・バジレアの 100 冊を超える著作は 60 カ国以上に訳されている。そのメッセージは、悔い改めへの妥協なき呼びかけであるとともに、天の御国の喜びを伝えている。自身の体験から語るマザー・バジレアには、神の権威からくる毅然たるものがあり、その深い霊的洞察は、全世界のキリスト者に大きな影響を与えている。彼女の主イエスへの愛は、数え切れないほど多くの人々の人生に祝福をもたらした。（『愛のまなざし 神の子の日ごとのよりどころ』マリア福音姉妹会 1993 年「著者紹介」より）

1月1日

あなたには慰めが必要です。今こそ一人の方が既にそれを用意しておられることを知りなさい。人が担うすべての苦しみをこの方は心に留めておられるのです。その方はあなたの父であられる神です。神にとってあなたを慰めることは難しくはありません。なぜなら、神はその深い愛ゆえに私たちを慰めるためにいつも言葉と道を備えておられるからです。そして、その力は偉大でいつもあなたを助けてくださいます。たとえ今すぐではなくとも、いつも時にかなって！

1月3日

あなたは、自分のたどる道がこれからどうなるのか不安に思っています。しかし、それを知る必要はありません。ただ一步を踏み出せばよいのです。そうすれば神は、あなたにまた次の一步を示してください。一步一步進み続ければ、やがてあなたは神が知恵あるご計画に従って、あなたを栄(は)えある目標にいたる道に導いてくださったことを知るでしょう。

1月4日

神は、その驚くべき御業と奇跡、栄光を全世界の前に現わすことを望んでおられます。それは神を信じる人々を通して起こるのです。それがあなたを通して起こることを今、神は待っておられます。

思いきって信じようではありませんか。望みのない状況にある時に神を信頼してごらんなさい。そうすればあなたは神を尊び、神を喜ばせ、神の御名を人々の前でたたえることになるのです。それがまたあなたを豊かにし、幸福にすのでしょう。そして、あなたが体験した奇跡によってあなたの信仰は更に強められるのです。

1月9日

神は、無限の愛をもって私たちに尊い恵みの賜物を準備しておられます。それは悔い改めです。いつも新たに悔い改める人は最も豊かな人です。彼らは絶えず新たに神の愛と赦しと憐れみ、それに神の心、新しい命という祝福にあずかります。自分の罪を幾度も悔い改める者は多くの恵みを受けるでしょう。

神は、独善的でかつ自己正当化し自己満足した心ではなく、悔い改めた謙虚な心に恵みを約束しておられます。ですからもっとも尊い恵みである悔い改めを求めなさい。神の愛はそれをあなたに用意しておられます。

1月10日

神は、イエス・キリストにあって私たちの父であります。ですから神にとって何よりも私たちの愛が重要なのです。御父は、ご自分の子らの愛を待っておられるからです。私たちは神を愛するために造られ、贖われているのです。何にもまして神を愛する人は、自分の人生の永遠の意義を見いだした人です。その人は、この世でそして永遠に豊かな命や喜びを受けるでしょう。

1月11日

私たちの悩みを知っている方がおられます。その方は、あらゆる思い煩いをご存じです。そして、いかに心配事が苦痛をもたらすかを知っておられます。それゆえに私たちを助けようとされます。その方は、私たちの心配事を引き受けてくださると約束しておられます。これ以上の良いことがあり得ましょうか。

その方は、私たちの悩みを取り除いて下さいます。その方は見込みのないところに道をひらき、苦しい状況を変え、私たちを助けて下さいます。ですからその方に心配事をゆだねなさい。そして、その方が今あなたの上にのしかかっている問題を取り払ってくださることを感謝しなさい。そうすればあなたの心は平和に満たされるでしょう。

1月13日

神があなたに与えられた重荷は重過ぎますか。それは恐らくあなたが重荷をすすんで受け入れず、一步一步背負わないためでしょう。あなたはそれを幾度も手に取り、常に新たに見つめ、背負えるかどうか推し量るかも知れません。しかし、それではあなたは自分の十字架を担うことができません。あなたは自己憐憫に陥り、重荷はあなたにとってほとんど耐えられないものとなるでしょう。

あなたの十字架を背負いなさい。そうすれば、あなたはその十字架を背負えると知るでしょう。それは天の父の御手により、愛をもってあなたのために量られたものですから、決して重すぎることはありません。

1月17日

もしかしたらつい昨日のことかも知れませんが、あなたは過去に神が祈りに答え、困っているあなたを助け、すべての苦しみから救い出してくださったことを体験しています。もしかしたらつい昨日のことかも知れませんが、あなたは過去に大きな悲しみのただ中で神があなたを慰め、耐えられないような試練に遭わせられなかったことを体験しています。あなたは昨日の神が今日、変わられたと思いませんか。「イエス・キリストは、昨日も今日も、また永遠に変わることはない方」(ヘブライ 13・8)であるように、父なる神も永遠に変わらないことを信じなさい。神は今日もあなたのことを気にかけておられ、耐えられないような試練に遭わせることはなさいません。神は今日もあなたを支えてくださいます。これに心を留めて、神の力と愛とが今日も変わらないことを信頼するなら、あなたはすべての困難に打ち勝つでしょう。

1月18日

あなたはどのように来るべき核戦争の不安を克服しますか。父なる神の愛を多く覚え、心に留めなさい。神の愛を見つめる者は、慰められます。愛には最大の困難な時にもいつも助けと守りの道があるのです。かつて燃え盛る炉の中にいるダニエルの友の所に救いの天使が送られたように、愛は私たちが焼かれないように火にさえ命じることができます。神は、困難にあって私たちとともにおられるという約束を御自分の者にお与えになりました。この約束は時を超えて有効です。神は言われます。「水の中を通る時も、私はあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず炎はあなたに燃えつかない(イザヤ 43・2)。神はあなたが非常な困難にある時、あなたを助けるために近くにおられます。それがあなたにとって十分な慰めとなりますように。

1月19日

父なる神は、愛ゆえに私たちと語ろうとされます。神は、私たちにご自分を現わし、その心を知らせようとされます。しかし、神は聖なる方です。神に出会うことはあなたが履物を脱ぐことです。それは、一定の期間、人間や生活環境や日常の雑事から解放され、私たちの心のうちを安全に静めることです。そして、神の語りかけを待つことです。

そうする者は、神に出会い、その人生が変えられ、神の国に仕える権力を与えられます。

1月23日

「主に向かって歌え」(詩編 96・1)

仕事に追われる日にもそうするのですか。はい、そのときこそ歌うのです。私たちは賛美を通して地上で天国を味わうのです。私たちが神を賛美するとき、神は私たちに近づき、私たちの行いを聖霊で満たしてくださいます。すると仕事は祝福のうちに成功し、私たちが困難に打ち勝てるように強くされます。そして、私たちの行いは永遠の実を結ぶでしょう。それは神のうちになされるからです。

1月31日

あなたは、あきらめようとしています。あなたはもはや戦うこともできず、すべては無駄であると考えています。しかし、神の愛には無駄と言うことは決してありません。ゴルゴダの十字架はそれを示しています。ここでは「無駄に戦ったこと」が最も栄光ある勝利となったのです。ですから神は「あきらめは戦いに負けることだ」とあなたに呼びかけられるのです。

更に戦い続けることは、勝利につながります。ですから、改めて戦いを始めなさい。そうすればあなたは勝利するでしょう。勝利のしるしとしてイエスの十字架があなたの頭上に輝くからです。

2月1日

あなたの心は不安と心配で一杯です。しかしあなたは、その苦境と困難を自分で解決することはできません。あなた自身の落ち着かない思いと願望があなたを弱く無力にしています。それらが、神がご自分の助けを注ごうとされるあなたの心の扉を閉ざすのです。

すべてを神にゆだねなさい。あなたのあらゆる思い、こころを騒がせる心配事や計画を手放しなさい。神はすべてをよくして下さることを知り、神と神の支配の中に静まりなさい。そうすればあなたは「安らかに信頼していることにこそ力がある」(イザヤ 30.15)ことを体験するでしょう。

この道を選びなさい。そうすればあなたは助けを体験するでしょう。

2月2日

神は、ご自身についてその子らに「恵みを与えることを喜びとする」(エレミヤ 32・41)と述べておられます。しかしながら神は、私たちがその恵みを足で踏みにじらないで受けることができるまで、しばしば待たなければなりません。神は、私たちが自分の喜びと最善のために恵みを正しく受け入れることができるよう、まず私たちを整えなければなりません。

あなたが恵みを待たなければならぬ時、反抗する代わりに、恵みを正しく受けるために懲らしめや備えの道に身をゆだねなさい。それだけ早くあなたは神の贈り物を受けられるでしょう。神がいつあなたに御自分の贈り物を与えることがおできになるかは、あなた次第です。

2月4日

苦しみ、困難、試練、罪の悩みの中にある人は、誰よりも先に神の心にたどり着きます。涙にあふれる子は、御父の腕(かいな)に抱かれます。御父の両腕は、子のために広く開かれています。

2月6日

私たちの人生において、困難がその極みに達することも、しばしば神の御計画のうちです。弟子たちが荒れ狂う海の中で最大の苦境にあった時もそうでした。神なら、高まる最初の波を静めることができになったでしょう。しかしそうしたら、弟子たちは決してイエス・キリストの力と栄光とを見ることは無かったでしょう。

あなたの人生に打ち寄せる波がますます高くなる時、こう思いなさい。神は、ご自分の全能と奇跡を証明し、御名に栄光が帰されるために、イスラエルの子らが紅海を渡った時のように、波を最高位まで高めるのを許される、と。苦境の時に、神の栄光と力、奇跡の業を期待しなさい。そうすればあなたは次の御言葉の真理を体験するでしょう。「もし信じるなら、神の栄光が見られる」(ヨハネ 11:40)

2月16日

イエスは、私たちに良い知らせを告げられます。罪人や哀れな被造物は、栄光と偉大さにあふれる宇宙を作られた全能の神を「我らの父」と呼ぶことが許されます。私たちはこの特権を十分に知っているでしょうか。

全能の主を父と呼べる特権を意識し、子供のような祈りと信頼によってそれを生かしなさい。そうすればあなたは、必要とする度に、助けを受けるでしょう。

2月17日

私たちは自分の人生に関する限り、建築家ではなく建設作業員のようなものです。私たちは自分の一生涯を計画する必要はありません。計画を握る私たちの人生の建築家は、神御自身であられます。ですから私たちは運命などに左右されません。神はすばらしい計画に従って、私たちの力や能力に応じた道に私たちを導いてくださいます。ですから神があなたの人生の建築家であることを妨げてはなりません。あなたがすべきことを行いなさい。すなわち、神のご計画に従い、その導きに従順に日々あなたの人生を築き上げなさい。それはすばらしい建物になるでしょう。